

日本学校教育相談学会

THE JAPANESE ASSOCIATION OF SCHOOL COUNSELING AND GUIDANCE

栃木支部会報 2010.07.31

NO.13

- 平成 22 年度日本学校教育相談学会栃木支部総会
- 記念講演 演題 「学校カウンセリングとソーシャルスキル・トレーニング」
小林 正幸先生（東京学芸大学教授）
- 栃木県支部理事紹介 梁瀬のり子先生（塩谷南那須教育事務所）
- 栃木支部からのお知らせ
- 栃木支部平成 22 年度事業計画

○ 平成 22 年度日本学校教育相談学会栃木支部総会

平成 22 年 5 月 29 日（土）に教育会館 5 階小ホールにおいて平成 22 年度日本学校教育相談学会栃木支部の総会と東京学芸大学教授の小林正幸先生をお迎えして『学校カウンセリングとソーシャルスキル・トレーニング』という演題で記念講演が行なわれました。

総会議事

- (1) 平成 21 年度事業報告
- (2) 平成 21 年度決算報告
- (3) 「会計監査」報告
- (4) 平成 22 年度事業計画案審議
- (5) 平成 22 年度予算案審議
- (6) 役員改正
- (7) その他

栃木支部役員

支部理事長	丸山 隆	
事務局 長	谷津 嘉子	
理 事	池田 清恵	伊澤 裕
	小川 正人	川俣 幸雄
	佐藤 幹雄	柴 一弥
	原田 浩司	藤浪 直紀
	毎澤 典子	梁瀬のり子
		【五十音順】
会 計 監 査	笠原 光雄	斉藤 誠一郎

支部役員の金子賢先生に代わり梁瀬のり子先生を新理事として迎えることになりました。

○ 記念講演『学校カウンセリングとソーシャルスキル・トレーニング』報告

講師 小林 正幸先生 (東京学芸大学教授)

平成22年5月29日(土)教育会館5階に小林先生をお迎えして、ソーシャルスキル教育のエッセンスを講演していただきました。会場は座席のないほどの超満員であり、参加者の期待と熱気があふれていました。以下先生の講演をまとめてみました。

なぜソーシャルスキル教育なのか。それは1980年を境に子ども文化に変革がおこり、人付き合いの技能=ソーシャルスキルを十分に身につけることが難しくなったから。

なぜソーシャルスキルが不十分なのか。それは子どもたちが、異年齢集団遊びから同年齢のより小さな集団で遊ぶようになったこと。さらにおもちゃの普及で家庭内での遊びが主流となったこと。(これは、どうやらおもちゃ産業の陰謀?であるらしい。)また地域社会では、「結」的な助け合いが減少し、結びつきが弱まったこと。などによる。

それにより何が起こったか。多くの子どもたちが、感情の交流の少ない局面的な人付き合いしか体験できずに成長し、相手のことも自分のことも部分的にしに理解できないため、人と上手に接していくことが苦手となり、人と付き合うことに強い不安やストレスを抱えるようになった。それが不登校やいじめ、きれる子などの問題となって表れた。

だから、SST。人付き合いの技能が不足しているのであれば身につければいい。間違っただけなのであれば学び直せばいい。特に不快な感情のコントロールについて、具体的かつ示唆に富むお話を聞くことができました。

その後実習を行い、SS教育を少し体験させていただきました。

穏やかな語り口から優しい印象を受けましたが、お話の内容は、大変密度が濃いうえに、思いもよらない視点と明快な分析に知的な好奇心が刺激され、次々と繰り出される笑いのパンチにほとんどノックアウトされて、あっという間に時間が過ぎていきました。(小林先生に限らず、第一線で活躍する先生方の講演は何でこんなに面白いのだろう。きっと私たちの知らない秘伝の“笑らかしスキルトレーニング”を習得しているに違いない。)

日ごろの教育活動で、ともすると世代の違いや価値観の違いとしてあきらめかけていたことも、学びなおしやトレーニングによって改善できるのだという、なんだか明るい明日を見せていただいたような貴重な勉強をさせていただきました。ありがとうございました。

(中島 正己記)



○ 栃木県支部理事紹介

塩谷南那須教育事務所副主幹 いじめ・不登校対策チーム

梁瀬 のり子先生

「育てるカウンセリングへの期待」

会員の皆様こんにちは。新しく理事になりました梁瀬です。弱輩者ではございますがどうぞよろしくお願いいたします。

さて、私は、「人は良いも悪いも様々な面をもっていて、どの面が出るかはその人を取り巻く人間関係による。だからよい学級集団をつくりなさい。」と恩師である社会学の教授に送られて教職に就きました。そして、一人一人のよい面が出る学級、一人一人がよりよく成長し合える学級、そんな学級集団づくりをめざしました。しかし、理想と現実のギャップは常に大きく、わがままで反抗的な子や自己主張せずいいなりになる子、行動が遅く何かとからかわれる子、盗癖や不登校などの問題行動を抱えた子等々、その子を集団に生かすどころか一人一人の子どもとのかかわりや指導、支援さえおぼつかない状態に悩んでいました。そんな時に教育相談の研修を知り、役立つものは何でも活用したいとの思いで学び始めたのです。傾聴、共感的理解、受容、理解の上での指導や支援であること等々、子どもや保護者と向かい合う上で大切なことを教えて頂きました。決して悩みが消えたわけではありませんが、様々な場面で助けになりました。まだまだこうした態度が身につかず反省しきりの日々です。まだまだ道半ばです。

中でも関心を持ったのは、すべての子どもを対象とし、問題の発生を予防したり子どもの適応や自己成長を援助したりする育てるカウンセリングです。育てるカウンセリングは、自分で自分の問題に対処する能力を育て、自分で問題を予防し、自分で自分を成長させていく能力を育てることが目標ですが、これは教育のめざすところと同じであり、教師である自分には馴染みやすかったのだと思います。学級担任の時には、学級経営にエンカウンターなどを取り入れ、あたたかなふれあいのある学級集団づくりや一人一人の自己理解、自己受容の促進に取り組んでいました。

学級担任を離れ個別相談が中心になっている今ですが、諸問題の未然防止の観点からも、人とかかわる意欲が減退している子どもが増えている実態からも学級集団の育成は重要だと考えています。個の育成はもちろん、集団の育成にも育てるカウンセリングの果たす役割はますます大きなものがあると期待し、学んでいきたいと思っています。

○ 栃木支部事務局からのお知らせ

※栃木支部 20 周年記念事業のお知らせ

平成 2 年 12 月に栃木支部が結成され今年で 20 周年を迎えます。下記の通り、20 周年記念事業が理事会で提案されました。この機会に皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。

栃木支部創立 20 周年記念事業

日 時 : 平成22年12月11日(土) 17:30より

場 所 : コンセーレ アイリスホール

会 費 : 5000円

(担当理事 伊澤 裕、池田清恵)

*なお、13:30より本田恵子先生の講演会「キレやすい子の理解と対応」が開催されます。

※「研究紀要」の原稿を募集します。

今年度は「研究紀要」を発行いたします。詳しくは別紙を参照下さい。

○ 平成 22 年度日本学校教育相談学会栃木県支部事業計画

開催期日	事業名	会場	備考
5月29日(土) 総会 13:00~ 講演 13:30~	【第20回総会および記念講演】 講演「学校カウンセリングとソーシャルスキル・トレーニング」 講師 小林 正幸先生	栃木県教育会館 5F 小ホール	東京学芸大学教授
8月3日(火) 4日(水) 5日(木)	【日本学校教育相談学会第22回総会・研究大会】 神奈川大会テーマ 「子どもの「こころ」を大切に、ともに育ち合う 学校教育相談実践活動の創造」 記念講演「人間の脳とこころ」講師 養老孟司先生	臨済宗建長寺派 大本山 建長寺・ 鎌倉学園中学校 高等学校	東京大学名誉教授 解剖学
10月23日(土) 13:30~16:00	【第20回支部研究発表】 コメンテーター 伊澤 裕先生	栃木県教育会館 2F小会議室	宇都宮市教育センター (まちかどの学校)
11月20日 13:30~16:00	平成22年度支部認定委員会	栃木県教育会館 2F小会議室	
12月11日(土) 13:30~16:00	【カウンセリング特別講座】 講演「キレイやすい子の理解と対応 —アフォーメンジメントプログラム—」 講師 本田 恵子先生	栃木県教育会館 5F小ホール	早稲田大学教授
12月11日(土) 17:30~	学校教育相談学会栃木県支部20周年記念集会 (仮)	コンセーレ2F アイリスホール	実行委員 伊澤 裕 池田清恵
1月 日() ~日()	【日本学校教育相談学会・中央研修会】 未定		
1月29日(土) 10:00~16:00	【発達障害特別講座】 講演「未定」 講師 山岡 祥子先生	栃木県教育会館 1F中会議室	臨床心理士
2月5日(土) 13:30~16:00	【精神医学特別講座・合同研修会】 講演「発達障がいと精神疾患」 講師 下泉 秀夫先生	栃木県教育会館 5F小ホール	国際医療福祉大学 教授
2月11日(金・祝)	【北関東ブロック合同研修会】	主催埼玉支部会	

日本学校教育相談学会栃木支部

〒320-0066 宇都宮市駒生 1-1-6 教育会館内
 栃木県教育研究所相談部 日本学校教育相談学会栃木支部事務局
 TEL 028-621-7274 FAX 028-627-5682 (事務局長 谷津)
 E-Mail : gakkai@trk.jp または soudan@trk.jp
 (発行責任者 丸山 隆 / 広報担当者 藤浪 直紀)